

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

「アルタイ型」言語に関する類型的研究(2) (2019 年度第 2 回・通算第 2 回研究会)

日時：2020（令和 2）年 3 月 29 日（日）14:00-18:00

場所：Zoom によるオンライン開催

報告者：児倉徳和（AA 研）

(1) 早田清冷（AA 研特任研究員, AA 研共同研究員）

「古典満洲語 gaji-「持ってくる」の命令形について:予備的研究」

古典満洲語には動詞 gaji-「持ってくる」の命令形のようなものとして gaji、gaju、gajio がある。本発表では、17 世紀半ばの満洲語訳『三国志演義』において、gaji と他とで以下の違いがあることを報告した。

1. gaji は運搬・同伴して移動不可能なものである領土を要求するときにも、「くれ」の意味で用いられているが、gaju、gajio は、そのような運搬・同伴して移動不可能なものの譲渡の要求に用いた例は無い。
2. gaji は「私にくれ」、「私に持ってこい」のような表現をする場合に、「私」を与格にして minde (1SG.DAT) gaji と言えるが、gaju、gajio には (gaji-の他の活用形同様に) そのような例は無い。

本発表については、主に満洲語が属するツングース諸語内での対応関係、および通時的発展の観点から議論が行われた。gaji- という語幹は、ji-「来る」という動詞語幹と関連付けられる要素 ji-との関連が示唆されており、現代の満洲語口語では na-/ji-が「行く」「来る」に相当する動作の方向性を表す接辞として認められている。本発表で取り上げられた動詞語幹 gaji- およびその命令形はそのような要素との関係において注目されるが、他のツングース諸語において ji-に相当する動詞接辞がみられないだけでなく、他のツングース諸語において語彙的に「来る」を表す動詞語幹は満洲語の ji-と対応しないなど、この動詞語幹およびその諸活用形式の成立を ji-「来る」との関係から論じることの妥当性についても議論が行われた。

(2) 下地理則（AA 研共同研究員、九州大学）

「日琉諸語の格と情報構造：脱主題化モデルの提案」

本発表では、日琉諸語の主要項、とりわけ主語の格標示について、情報構造との関連から論じた。日琉諸語の主語の格標示は主題標示と範列的關係にあり、本発表ではこの観察事実を出発点に、主格標識を「脱主題化標識」と位置づけ、主格標示の動機に情報構造があるという脱主題化仮説を示した。類型論では、主要項の格標示の動機は主に他動詞文の 2 項 (A と P) の相互識別にあるというのがこれまでの有力な見方 (AP 識別仮説) であったが、本発表は日琉諸語の格標示について、別の動機があるとする見方 (脱主

題化仮説)を提示した。

本発表については、格標示と情報構造の標示という機能がどの程度まで区別可能か、という問題が提起され、それに関連してアルタイ諸言語にみられる名詞句の定性(definiteness)に関連すると考えられる対格標示をとらない直接目的語や、アルタイ諸言語における対格標示と主題標示の形態的近接性など、格と主題標示の関連を示唆する現象に関する情報共有が行われた。また、従属節における対格主語を中心とした、節の階層性と情報構造、主語の転換の関係に関しても情報共有が行われた。とくに後者は「アルタイ型」言語にみられる語・句・節の連続性という本課題において検討する中心的な特徴に繋がる現象であり、格と情報構造という名詞の標示を本研究課題の枠組みによって捉える為に考慮すべき現象を共同研究員の間で共有することができた。

参加者は16名(全て所員・共同研究員)であった。それぞれが専門とする言語・分野の見地からコメントを述べ、活発な議論が行われた。

以 上

(文責・児倉徳和)